



令和5年度 神奈川県立多摩高等学校 第5回学校運営協議会議事録

日 時：令和6年3月1日（金） 15:00～16:15

場 所：多摩高等学校 会議室

出席者：学校運営協議会委員3名（代理出席含む）、校長、副校長、教頭、各 GL

1 開会

校長挨拶

- ・部活動、グローバル教育等で多く紹介されている。学力向上進学重点校となるが、バランスよい指導が展開できている。
- ・今年度はSSHのI期が終わり、エントリー校も終わった。学力向上進学重点校となる令和6年度は、再起動の年と位置付ける。
- ・生徒も明るく教員も意識が高い。引き続き成果が出せると思う。
- ・次年度も様々なご意見いただけるよう頑張っていく。

2 協議

① 令和5年度学校評価中間報告（各 GL）

（学事グループ）

- ・次年度は新カリキュラムが3学年揃う。3年生は講座の設定、時間割の展開方法が固まり、1・2年生の時間割と合わせていく。70分授業はメリットが多く定着しているが、時間数のアンバランスが大きくなるので、引き続き特別時間割で調整を図っていく。
- ・SSH特別講座（土曜講習）は、講座数、参加者数ともに少なかった。実施後のアンケート結果からも、今後のあり方を検討する必要があると考えている。
- ・デジタル採点については約半数の職員が活用した。すべての教科・科目に対応できるようになってはいるが、画面上で採点することに関して「やり易い・やりにくい」等もある。4月に着任する先生方にも紹介し、引き続き活用していきたい。

（学校経営推進グループ）

- ・今年度目標に掲げている月2回以上の学校ホームページ記事の更新については1年間通して達成することができた。
- ・昨年度より公開しているバーチャルツアーについて、敷地内整備が終了した中庭を追加掲載する準備が進められ、来年度早々には公開できる見込みである。
- ・学校見学会についても予約による人数制限を撤廃し、より多くの方を受入れる体制を検討している。
- ・海外研修に関心を持っている生徒の割合は50%以上であった。外国語運用能力について、CEFRのB1以上の判定の割合がここ数年上昇している。
- ・SSHメラーボプロジェクト部の導入で、SSHの取組における放課後の活動回数が上昇した。
- ・Merakiでは、新学習指導要領に伴う学習計画の修正により、調査・実験の積み重ねにより研究を深化させたものの割合が上昇した。
- ・いずれもI期指定初期に比べて数値の上昇が見られている。II期申請の結果を3月中旬から下旬にかけて確認し、来年度の計画を進めていく。

(生徒支援グループ)

- ・令和5年度かながわ部活ドリーム大賞を受賞。受賞内容については配付資料参照。
- ・生徒指導関係については、後期において近隣住民等からの指摘等は無し。但し、登下校マナーについては、十分とは言えないため、工夫した指導が必要。
- ・学校行事については、残すところは球技大会。本年度はパラスポーツ（ボッチャ）を新種目として実施予定。運動の苦手な生徒等が参加しやすい共生の視点をもって改善している。
- ・次年度の学校行事についても、準備を進めている。体育祭についても、今年度から各種変更予定。競技も追加予定。生徒主体で改善を進めている。
- ・生徒支援については、本年度よりサポートドックを実施し、支援体制が強化されており、一定の成果改善がみられる。次年度はより、連携体制を強めたい。

(学校管理グループ)

- ・地域等との協働では、校内評価③地域と協働して生徒向け防災訓練を実施した。
- ・学校管理学校運営では、校内評価②③デジタル化の推進、グループ業務の精選を行った。Teamsによる欠席連絡の導入したことで、朝の電話連絡がなくなった。電話交換機の導入で時間外の電話連絡がなくなった。教員の時間の確保、働き方改革につながった。
- ・安全はすべてに優先する。危険な設備備品の更新を行った。破損した校歌板の撤去など

(キャリアガイダンスグループ)

- ・報告書の内容は中間評価から大きく変更はない。
- ・年度内の行事としては、チューター相談会、進学準備説明会を予定している。
- ・中央棟の多目的スペースには個人用の机と椅子を置いているが、いろいろな活動ができるように移動しやすい机に変える予定である。
- ・次年度に向けて、模試の分析や地方の国立大学の見学等を検討している。

② 令和5年度学校評価中間報告への質疑応答

- CEFRとはどういったものか。学校が定めたものか。県が定めたものか。多摩高生は、その水準が向上しているということか。
→ヨーロッパ言語の共通参照枠で、Bは自立した言語使用者という水準。英検やGTEC、TOEFLといった様々な検定での共通の評価となる。多摩高生は向上している。
- 業務アシスタントとはどのような存在か。
→職員室における事務的な業務をサポートする職。6年目となる。印刷や配付、入力や点検、会計処理など担当する。次年度は2人となり、1人は管理職の事務作業に当たる。
- 電話の交換機は、時間外は対応しないのか。苦情はないのか。
→時間外は対応しない。導入直後の戸惑いはすぐになくなった。勤務時間外も職員は残っているが、対応しなければならない業務があるため、電話対応は難しかった。
- 3年生の3者面談が年に1回は少ないと感じる。希望者だけでも受けられるとうれしい。
→出願検討会の結果連絡等、個別には丁寧に対応しているが、要望を見ながら対応する。
- 地域からの苦情が出なくなったということは良いことだが、登校時に駅から多摩高校信号までの直線道路での道に広がる歩行生徒が気になることがある。
→引き続き指導を続ける。
- SCは、生徒が外部に相談に向かうのか。どのような相談があるのか。
→毎週火曜日にSCが来校する。友人や家庭、進路など多種多様な悩みが寄せられる。か

ながわ子どもサポートドックで発見される支援が必要な生徒へのプッシュ型面談も実施した。毎週水曜日にはSSWが来校する。保護者も相談でき、有効に機能している。

③ 意見聴取

- SSHとなった頃と比べると、新入生はSSHを強く意識して入学してきて、SSHが浸透しているように見受けられる。卒業後もSSHの意識が継続されれば、人生を通して得意分野の伸長にもつながると思うので、継続も意識して続けてほしい。
- エントリー校から学力向上進学重点校となり、さらに大変になることが予想されるが、多摩高校の良さを大切に、多摩高校の良さをアピールしてほしい。
- 働き方改革のため平日開催となっているが、協議会委員の中には平日勤務者も多い。招請状に代理者の基準を指示してくれると代理者としてもありがたい。
- エントリー校から学力向上進学重点校となり、周囲の期待も高まり、さらに大変になることが予想されるが、頑張りたいと応援している。かつては「行事の多摩」で有名だったが、いまはとても良いバランスと見受ける。
- 同窓会としては、数多くバックアップしたい。本校卒業生の研究者には臨床心理学や植物学など、まだ多くの講演等候補者がいる。引き続き協力させてほしい。
- 協議会に参加すると、学校的意思決定が非常にきめ細かく良いと感じている。

3 その他

次年度の開催について

4 閉会

終了後、各部会に分かれて討議を実施した。

○地域連携部会

- ・地域との連携を含む防災訓練の実施について

○キャリア部会

- ・令和5年度進路実績中間報告（私立大学、総合型選抜）
- ・難関国公立の総合型選抜の活用について
- ・探究活動が難関大学への進学に与える影響について
- ・地方の国公立大学への有効な進路指導について
- ・探究活動の全国大会について